

# 第4章 第3次歯科保健計画の施策体系図

## 1 基本理念

胎内市の基本構想である「自然が生きる、人が輝く、交流のまち 胎内」を目指し、市では健康づくりのゴールを「その人らしい豊かな人生の構築」としました。(図54) 病気にならないように、「病気ゼロ」だけを目指とするのではなく、たとえ病気があっても元気に過ごせるように『心身のマイナス要因を減らす』といった疾病対策と、『心身のプラス要因を増やす』といった元気対策を、その人にあったバランス加減を大切にしながら総合的な健康づくり事業を実施しています。(図55)

図54

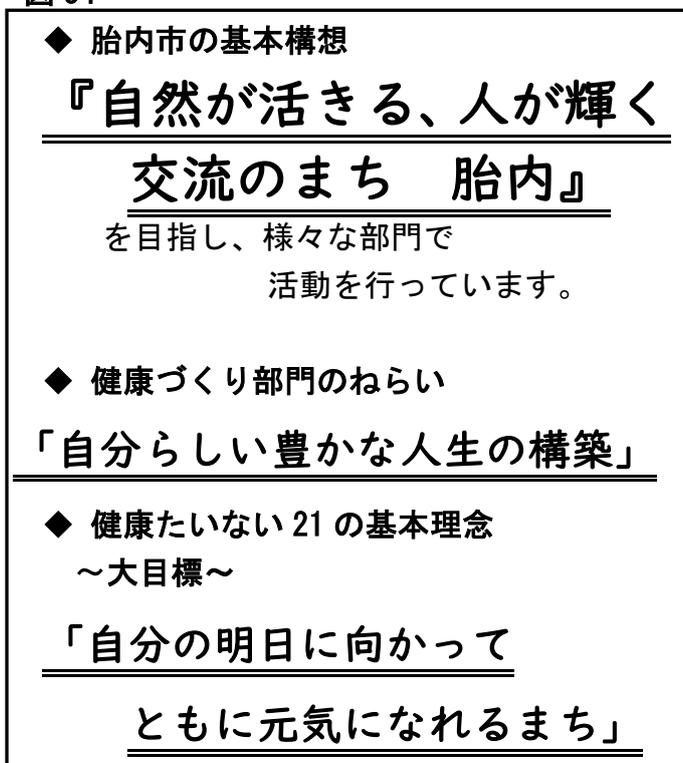
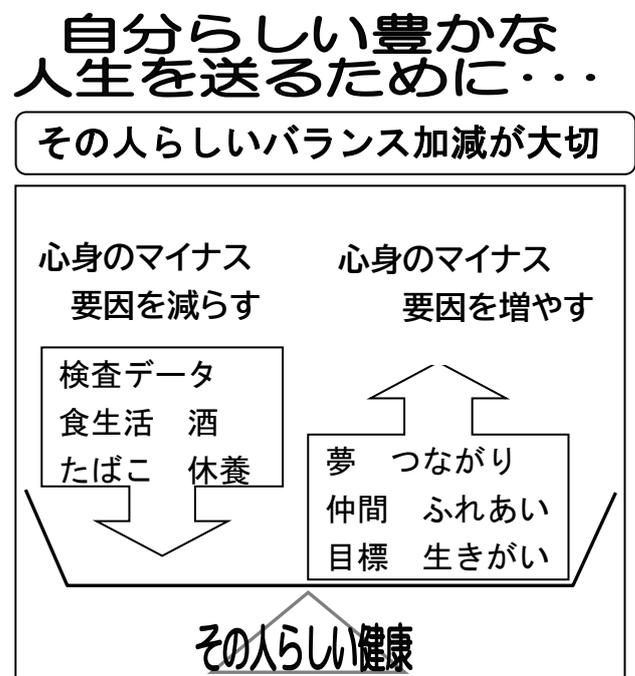


図55



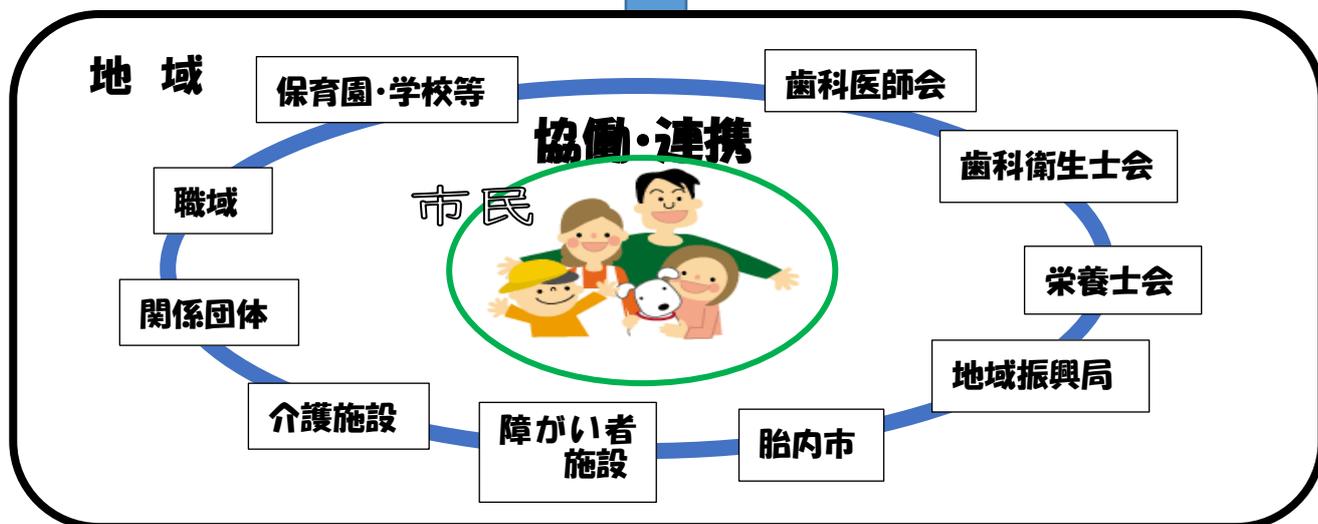
病気と元気の関係の図 健康たいない21より

胎内市歯科保健計画策定においても、「病気へらし」と「元気ふやし」を2軸とした、歯や口の健康づくりを目指しています。本計画の一次計画策定にあたって、「胎内市歯科保健計画策定委員会」を設置し、検討した中で出てきた意見「目的・望む姿」、「手段・方法」、「結果・目標値」等が全て網羅されたものが、究極の望む姿であるとし、本計画の理念を「おいしく食べて・楽しく会話・健口でいきいき人生ワッハッ歯」としました。

# 『その人らしい豊かな人生の構築』

歯科保健計画の理念 ～究極の望む姿～

おいしく食べて・楽しく会話・健口でいきいき人生ワッハッ歯



## 基本目標

- ・口腔内の衛生と全身の健康との関連を知り、疾病予防に取り組める
- ・口腔機能の健全な育成
- ・歯と口の健康づくりについて正しい知識と適切な歯科保健行動を習慣化し、6024,8020を目指す!
- ・口腔機能の維持・向上によるオーラルフレイル(口腔機能の虚弱)予防
- ・かかりつけ歯科医をもち、必要な治療やケアをうけることができる
- ・歯科保健を推進する、関係機関との連携、社会環境の整備を図る

生涯を通じて歯や口腔の健康を維持することは全身の健康につながるといわれています。

歯が生え始める乳児期から歯や口腔機能を育てることは成人期や高齢期になってからも健康で質の高い生活を営む上で、重要な役割を果たします。それぞれのライフステージに応じた切れ目のない取組により、高齢期まで「歯やお口の困りごとがなくいつまでも笑顔で、おいしく食事ができや会話ができる」ように、関係機関と連携しながら取り組みが求められています。

## 重点取組

基本目標に対し、その実現のために4つの重点取組を基に推進していきます。

| ポイント    | 内容   |
|---------|--|
| セルフケア   | 歯みがき習慣の定着<br>補助清掃具（デンタルフロス、歯間ブラシ等）の使用                |
| フッ化物の利用 | フッ化物塗布の継続<br>フッ化物配合歯みがき剤の使用                          |
| フォローアップ | かかりつけ歯科医での定期歯科健診とメンテナンス（プロフェッショナルケア）<br>早期受診・早期治療    |
| 生活習慣    | よく噛むこと<br>バランスのとれた食事を食べよう<br>間食の適切な摂り方について<br>身につけよう |



## 各ライフステージ・対象像における重点施策

| 乳幼児期                                     | 園児期・学齢期   | 成人期<br>(妊産婦)   | 高齢期  | 要介護者・<br>障がい者等  |
|--|---|--|--|---|
| ●親子で、いろいろな場で子どものおし歯予防について話し合い、実践できる環境づくり | ●育ち盛りの子ども達が歯や口に関心をもち、サポートを受けながら正しく歯や口の手入れをすることができ体制づくり<br>●歯みがき行動が成人期以降も継続できるよう習慣化できる | ●赤ちゃんがお腹の中にいるときからお母さんが歯を大切にしていけるための環境づくり<br>●二十歳から定期健診を受けるための働きかけ<br>●歯の大切さを若い世代に伝えるための環境づくり | ●残存歯や義歯など口腔内のお手入れを適切に行うことにより、口腔機能が維持でき、生涯笑顔で、健康長寿を目指す（新8020） | ●本人、家族、介護者、施設関係者が口腔ケア等について正しく理解し、実践できる環境づくり<br>●歯科医院に通院するための支援体制づくり |